

パソコンの進化と基本動作

技術の進歩は早いですが基本は変わらないパソコンの機能

世に浸透したパソコンですが、過去3回ほど大きな変化をしています。初めは16進数のみしか入出力できない機械でしたが、タイプライタと同じように直接英数字を入力できるキーボードとその内容表示をするものに進化しました。この頃のパソコンは、メモリの内容を直接操作するのが当たり前でしたので、常に内部の構成を意識しながらプログラミングする必要がありました。

次の進化は、フロッピー・ドライブがついて、MS-DOS(Microsoft Disk Operating System)を装備したときです。ディスク装置を制御できるDOSのおかげでメモリや外部記憶装置を直接プログラ

ムで操作する必要がなくなりました。アプリケーション・ソフトウェアが安定して動くようになったのもこのころです。

そして、三度めはWindowsを利用するようになったときです。WindowsはMacintosh(アップルコンピュータ社)が先駆けて採用していたGUI(Graphical User Interface)を搭載し、複数のソフトウェアが同時に稼働できるようにもなりました。

プログラムを車に例えると、初めは路面を意識しながら凸凹道を走行する車、次は舗装道路で道幅に注意して走行する車、最後は並んで高速道路を走行する車、というような感じです。1990年以

パソコンの進化

1976年頃	NEC	TK-80	16進入力、数字LED表示のワンボード機。マシン語で動作。8ビット。
1981年頃	富士通	FM-8	グラフィックや漢字表示をサポートした、ROM-BASICを基本とするマシン。8ビット。
1982年頃	NEC	PC-9801	この後、NECの独走の元となる16ビット・パソコン。マイナーチェンジでどんどん機能強化された。
1985年頃	マイクロソフト	MS-DOS3.1	MS-DOSの実用性が増し、各社のパソコンにこのDOSが搭載された。BASICもこのDOS上で利用されはじめた。
1989年頃	東芝	DynaBook J3100SS	世界初の小型ノート・パソコン。
1990年頃	マイクロソフト	Windows 3.1	普及に成功した最初のWindows。MS-DOS上で動作するようになっていた。
1995年頃	マイクロソフト	Windows 95	32ビットコードを利用したOS。ほとんどのパソコンに搭載された。
1996年頃	マイクロソフト	Windows NT4.0	システムの安定性を重視したWindows。サーバなどをターゲットとした。
1998年頃	マイクロソフト	Windows 98	OSの中にインターネット関連ソフトを統合させた。
2001年頃	マイクロソフト	Windows XP	パソコン用(95系)とサーバ用(NT系)を統合したマルチ・ユーザOS。
2006年頃	マイクロソフト	Windows Vista	ユーザ・インターフェースが変わり、マルチメディア対応が強化される。